

|           |   |
|-----------|---|
| 学校目標・経営方針 | 自主・自律の精神と創造性を尊び、幅広い知性と豊かな人間性の涵養を図るとともに、常に自己と社会をよく見つめ、高い理想のもと広く社会で活躍する人材を育成する。 |
|-----------|---|

|          |  |
|----------|--|
| 本年度の重点目標 | 1 学び方を学ばせる視点のもと、主体性を引き出す深い学びを推進し、批判的な思考を通して、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成に努める。 |
|          | 2 自己実現を図る進路目標の設定とその達成に向けた取組を支援し、自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成に努める。             |
|          | 3 部活動や学校行事、学校外活動など、様々な経験ができる機会を提供し、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう努める。       |
|          | 4 PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かすなど、時代のニーズに応える特色ある教育活動の構築と推進に努める。  |

「自分を律し、自己を高めていく」人間力の育成を目指し、以下に取り組む。

|     |                   |
|-----|-------------------|
| 達成度 | A ほぼ達成できた。(8割以上)  |
|     | B 概ね達成できた。(6割以上)  |
|     | C 不十分である。(4割以上)   |
|     | D 達成できなかった。(4割以下) |

|    |              |
|----|--------------|
| 評価 | 4 良くできている。   |
|    | 3 できている。     |
|    | 2 あまりできていない。 |
|    | 1 できていない。    |

| 自 己 評 価  |  |   |   |
|----------|--|---|---|
| 本年度の重点目標 |  | 年度末評価(2月14日現在)  |   |
| 番号       | 評価項目   | 具体的方策   | 方策の評価指標   |
| 1        | 主体性を引き出す深い学びを推進し、本質を粘り強く追究しようとする探究的に学びとる力の育成             | 「問いを立て追究する」という生徒の探究力向上を目指し、深い学びを提供する授業改善に取り組む。<br>教員のICT活用指導力を向上させ、各教科等の目標を達成するためにICTを活用できるようにする。<br>課題論文やIBを中心に据えながら、探究型学習プログラムや教育課程の開発整備に努める。   | 教員の自己評価<br>教員アンケート<br>授業アンケート<br>教員の自己評価<br>教員アンケート<br>授業アンケート<br>教育課程の編成<br>課題論文の指導計画<br>学校評価アンケート |
| 2        | 自分の立ち位置を知り、自己の可能性を切り拓く意欲の醸成                              | 生徒の学力向上に資する指導改善に向け、学びの基礎診断の結果をもとに生徒の基礎学力の分析と対策を適切に行う。<br>進路講演会や進路ガイダンスを適切に配し、入試等への理解度を高めるとともに、目標達成に向けた学力向上に資する課外や講座等の効果的な実施に努める。<br>目標を意識し、その達成に向けて自主的に取り組む自己管理能力を向上させるため、学習手帳の利用を進め、面談や個別指導等に活用する。   | GIZ指標の変動<br>教員相互の授業評価シート<br>大学合格状況<br>学校評価アンケート<br>学校評価アンケート  |
| 3        | 部活動や学校行事、学校外活動などにより、他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中での成長を支援       | 豊かな人間性や人間関係形成能力の育成を図るため、生徒及び指導者のワークライフバランスの視点も含めながら、学校行事や部活動等のあり方を見直すことにより、生徒の主体的な取組を促す指導を推進する。<br>社会の一員としての自覚、社会参画への意欲などの醸成に向け、地域貢献や異校種間交流、ボランティア活動など、様々な体験ができる機会の提供に努める。<br>悩みや問題を抱える生徒の早期発見に努め、教職員間及び外部機関との連携を密にして、生徒一人一人の学校生活のサポートに努める。 | 学校評価アンケート<br>行事開催状況<br>学校評価アンケート<br>生活実態調査<br>学校評価アンケート   |
| 4        | PTA・同窓会・地域・高等教育機関などとの連携を深め、国際バカロレアの趣旨を生かした特色ある教育活動の構築と推進 | グローバル化や高度科学技術などに対する素養を身に付けさせるため、同窓会や大学、企業等との連携を図りつつ各種講演会など多様な学びの機会を提供する。<br>本校の特色化を図り、知的好奇心や探究心などの育成につながるため、新入生に対してプレIB講座を実施するなど、IBの良さが共有できる教育活動を展開する。<br>教育活動の充実改善に生かすため、ホームページを単なる情報発信に留めず、双方向的に利用し意見や要望聴取に努めるなどして、有効に活用していく。             | 学校評価アンケート<br>プレIB講座実績<br>学校評価アンケート<br>授業アンケート<br>HPアクセス数<br>学校評価アンケート                               |

| 学校関係者評価        |   |
|----------------|---|
| 実施日 (令和5年3月6日) |   |
| 評価             | 意見・要望等  |
| 4              | ・日頃から教科・科目の学習を基盤とした探究型学習プログラムとして課題論文に取り組む教育課程は、大きな成果が期待される。<br>・幅広い視野で自由度を重視したりサーチャー・クエスチョンを通じて生徒からユニークな発想を引き出している。探究的学びの目標の達成度は高い。<br>・ICTは加速度的にアップデートされていくので苦労も多いと思うが、早い段階での積極的な活用を評価したい。多ジャンルに渡る活用から生徒の才能を引き出せることができれば素晴らしいことだと思う。<br>・生徒にとっては種目どころが難しいIBに対して教員の経験値が高まっている努力に敬意を表したい。次年度への取組も期待する。<br>・IBDP生にとって、Conceptual(概念的)/Debatable(議論の余地がある)/Factual(事実に基づく)な問いを探究の入り口として自ら立てる練習は大変重要。今後は情報を集め、その中から問い(Prompt)を引き出し、AIを使いながら論文として昇華させて行く力が求められると思う。Chat GPTをエッセイ課題に使用することを認める、とIBOからの見解も出された。重要項目として注視して行く必要がある。<br>・日々の先生方の努力と精進が毎年の学業の結果につながっている。  |
| 4              | ・個々に適した指導が結果を出していると思う。生徒が自身の立ち位置を知ることからのスタートと思うが教員のリードとサポートあつての結果であろう。<br>・進路ガイダンス、キャリアガイダンスが生徒の意識向上や適性認識をより深い結果へと繋がついているのだろう。適切な実施がうかがえる。<br>・学習手帳の活用など個に対する考え方の浸透を感じる。自己の可能性は、手帳の記録を振り返ったときに感じとれるものだと思う。<br>・コロナ禍で培ったオンラインのノウハウを今後も効果的に使い、効果的な学習サポートや個別の指導に生かすための新しい方向性が見えたことは大変良いことと思う。適切にICTを利用することで、教員の業務負担が軽減されていくことが望ましい。<br>・大学受験を通して自己の確立を深める為、その先にある未来に向けて、大切な高校生活の中で先生方の工夫により生徒の未来の希望となる指針が出来ていると思う。   |
| 3              | ・他者を思いやりという指導は、自分を抑える方向で自己を管理してしまいがちになる。「思いやり」が目標になってしまうことの難しさを感じる。<br>・勤務時間の制約の中で文武ともに部活動の成果が出ている。限られた時間の中で様々な工夫があったと感じる。<br>・感染症対策等での活動制限から培ったリアルとオンラインの使い分けがひとつのテクニックとなり、今後のより効果的な指導につながればと思う。<br>・スクールカウンセラーとの面談希望の増加は「時代」なのか？高校生自身の精神面の「強さ」が少しずつ減少している傾向を懸念する。<br>・IBのCASに相当するような科目を(課外活動としてであっても)設定することで、異校種間交流やボランティアの機会なども生まれるのではないかと。起業アイデアコンテストなども昨今は増えており、海外のコンテストに応募する生徒がいてもいいのではないかと。これは、ある種の入試には役立つことにもなると思う。一方で教員の負担が増えることは避ける必要があるため、生徒一人一人が自立した学習者として自発的に活動を展開できるのが理想だが、OB、保護者や地域の方々のお借りするなど、工夫のしどころではないかと。<br>・コロナ禍での学業、部活動の工夫や学校行事に対する配慮、本当に感謝している。社会へ出た時の生きていく力が育ってくれると信じている。1人じゃない!!この気持ちを共有できることは社会に出て大きな糧になると思う。 |
| 4              | ・IBの趣旨を教育活動に生かし、充実を図る先生方の姿勢を感じた。母校の発展を願う同窓生の一人として、たいへん頼もしく思う。<br>・企業との接触から生徒が見出すものは多い。より積極的な機会の創出に期待する。<br>・IBの全体像の理解は容易ではないので、プレ講座などの取組みは大いに進めてほしい。<br>・ホームページは上手く活用されているが、もう少しシンプルでも良いと感じる。<br>・魅力的な登壇者を招いての講演会など、授業外にも生徒たちに刺激を与える仕掛けが用意されている。Pre-IBという1年生全員が参加できる場を利用し、答えがひとつではない学びの道を提示して行けることが大変有意義であり、IB的な学びのエッセンスが全体的に浸透する良き機会となっている。今後も教員の学び合い、地域の皆さんとの学び合いなどを続けて行けると良い。<br>・IBに関しては、何年も前から先生方が生徒の為に尽力している。先生方の努力と生徒の未来に向けて同窓生・PTAは協力を惜みず応援して欲しい。   |

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。  
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的な対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。